今日ご報告すること

■全農の自己改革の実践状況について

■全農の今後の目指す方向について

全農の今後の目指す方向(次期3か年 平成31~33年度計画)

5年後、10年後を見据えた本会の目指す方向

(1) 自己改革の加速化

(2)作物別・品目別戦略策定による農業総産出額の計画的・段階的な拡大
1 国内需要を賄う生産力を有する農畜産物の完全自給
2 国内需要に対して不足している農畜産物の生産拡大
3 輸入量の多い農畜産物の国産への転換
4 国際競争力のある農畜産物の輸出

(3) マーケットニーズをふまえた販売戦略の構築

(4)元気な地域社会づくりへの支援

(5)急変する海外動向に対応した新たな海外戦略の構築

(6) JAグループの機能分担の見直しと会員還元の最大化



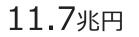
作物別・品目別戦略策定による農業総産出額の 計画的・段階的な拡大

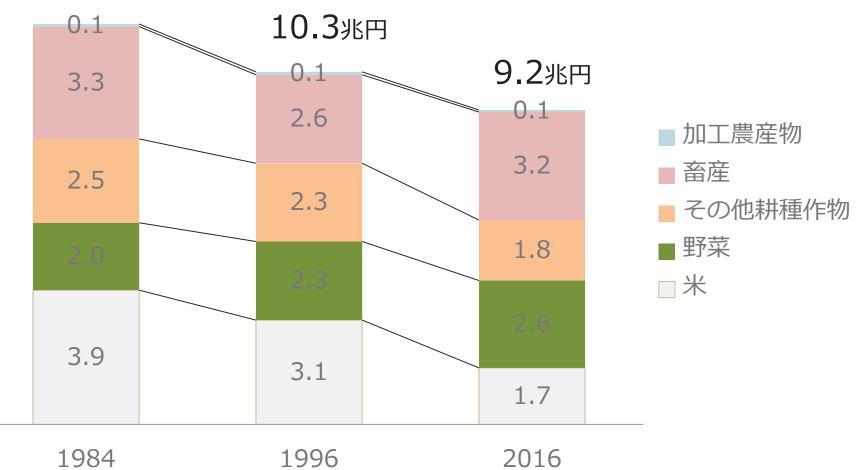
〇品目別の戦略を策定し、国内生産量の拡大に取り組み、食料自給率の向上に貢献



漸減傾向の日本の農業産出額

■農業産出額の推移





出典:農林水産省

8,600万トンの食料が必要な日本

■日本の食料需給表(2016年)

(単位:万╘>)

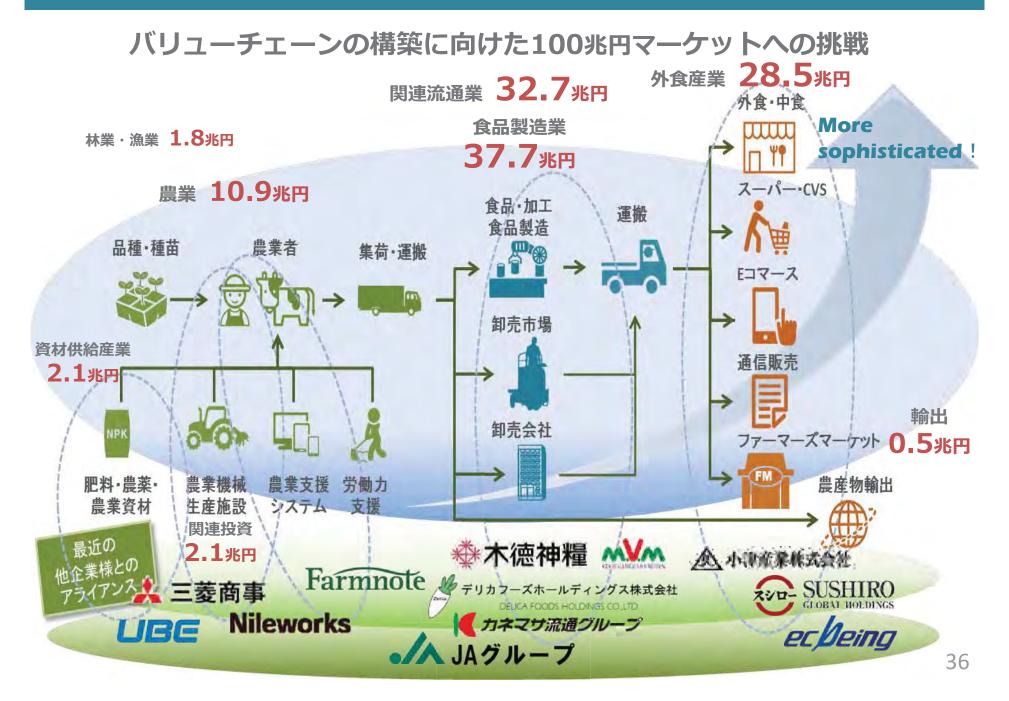
	類別・品目別	国内生産量	外国貿易		国内消費仕向量	
			輸入量	輸出量	仕向量	内 飼料用
農産物	穀類	950	2,380	9	3,310	1,430
	*	860	90	9	860	50
	麦類	100	740	0	860	180
	トウモロコシ	0	1,490	0	1,500	1,140
	豆類	30	340	0	380	10
	野菜	1,160	290	3	1,450	0
	果実	290	430	6	720	0
	その他	560	120	1	680	0
	小計	2,990	3,560	20	6,530	1,440
畜産物	肉類	330	290	2	620	0
	鶏卵	260	10	0	260	0
	牛乳および乳製品	730	460	3	1,190	0
	小計	1,320	760	5	2,080	0
	合計	4,310	4,320	24	8,600	1,450

※国内生産量、輸入量、国内消費仕向量は10万トン以下の端数を四捨五入

※四捨五入、在庫増減の影響などにより、各セルの数と合計は一致しない場合がある。

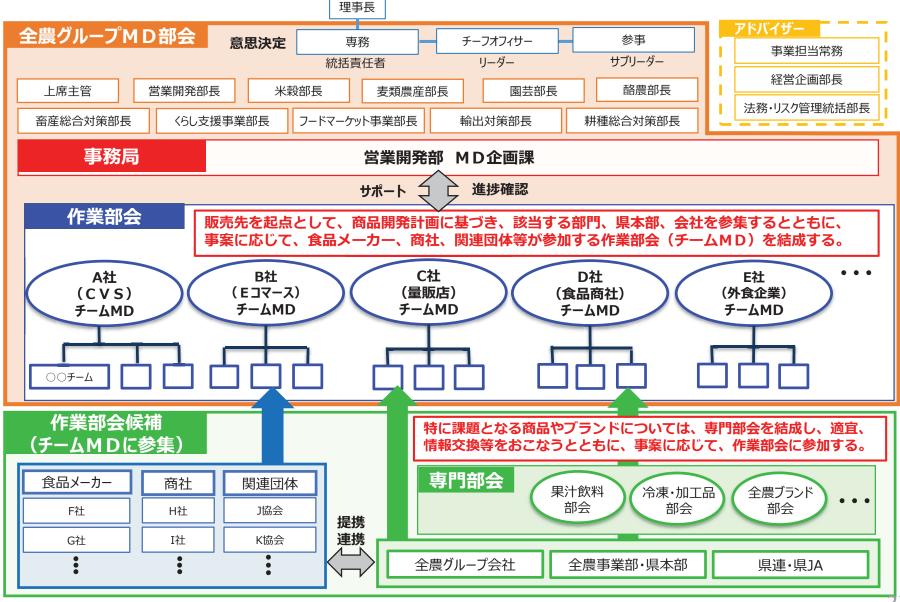
出典:農林水産省「食料需給表」をもとに全農作成

バリューチェーンの構築に向けた事業領域の拡大



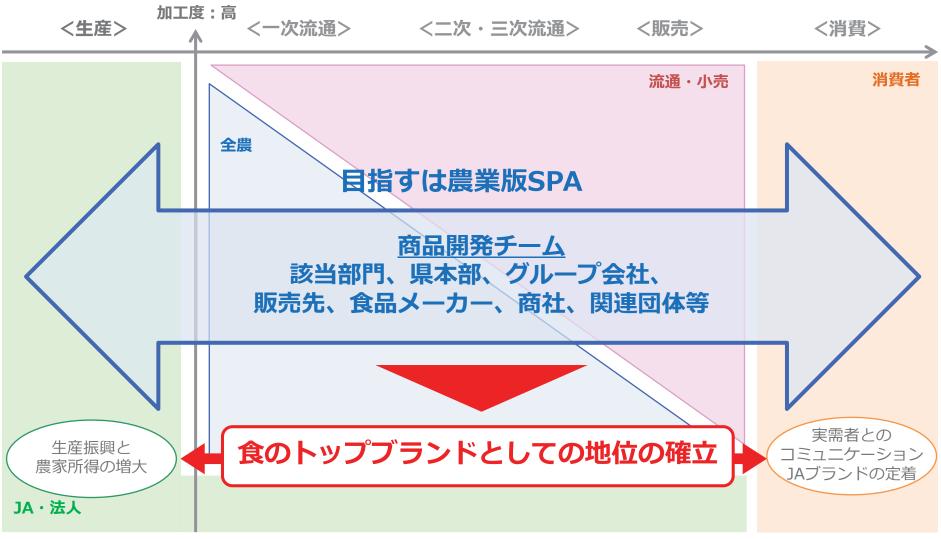
全農グループの一体的な商品開発に向けた新体制(全農グループMD部会)

○生産振興の取り組みと「全農グループMD部会」により、商品開発等の販売戦略を 一体的に取り組み、食のトッ<u>プブランドとしての地位を確立する</u>。



37

マーケットニーズを踏まえた販売戦略の構築

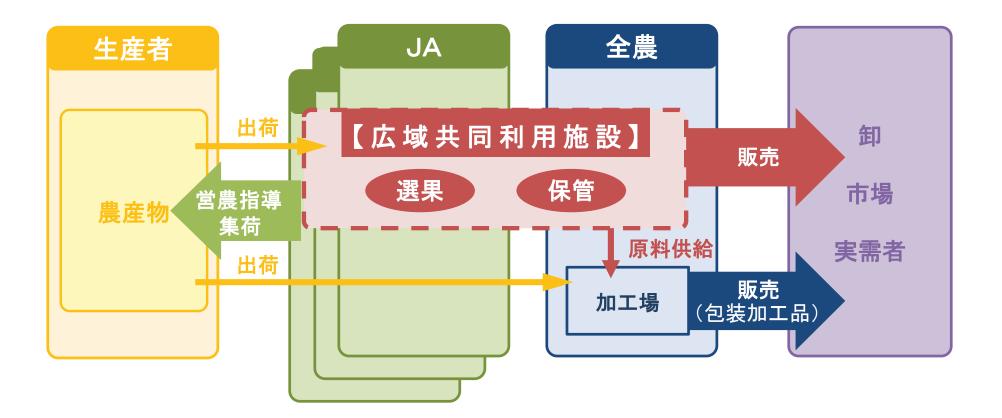




MD企画課を中心にチームを組みながら生産から販売まで一気通貫の商品づくりに取り組む。それによって全農ならではの商品・販売体制を確立し、食のトップブランドとしての地位を築いていく。

JAと一体となった共同利用施設の運営

OJAと一体となった共同利用施設の運営(イメージ)



JAと本会の重複機能の見直しによる経営資源の適正配置や、選果・選別・調整作業等の効率 化、消費者・実需者に選ばれる規格品の安定供給をはかるため広域共同利用施設を設置する

園芸事業における選果・集出荷施設の集約

<A農協 選果・集出荷施設の集約イメージ>

